

関西空港調査会のこれからの取り組み



（助）関西空港調査会理事長
京都大学名誉教授

吉川 和広

新年あけましておめでとうございます。

関西国際空港は、2007年8月に第2滑走路を供用し、我が国初の完全24時間運用の国際空港として、着実に実績を重ねてまいりました。

しかしながら、昨年以降、関西国際空港と航空市場を取り巻く環境は、原油価格の高騰に伴う航空機燃料の上昇、米国発の金融危機に伴う大幅な円高と世界景気の後退などと一変し、一段と厳しさを増しております。また、今後の問題として、2010年の成田、羽田の拡張による8万回の国際線発着回数増加の影響が懸念されております。

既に昨年の秋以降、関西国際空港では、航空旅客の減少、さらには路線・便数の減少と影響が顕著に現れております。

このように厳しい状況に至るまで、国際競争力の確保という関西国際空港にとって根本的な課題の解決が放置されてきたことは大いに問題ですが、次の大きな飛躍のための試練と前向きに考え、今こそ、国際貨物ハブ空港の実現を目指し、関西国際空港の高コスト構造の是正に向け、巨額の有利子負債を抱える財務構造の改善に着手するとともに、全体構想の実現に向けたコンセンサスを得て計画的な整備を継続していくべきであります。

さらに、関西国際空港が旅客と貨物の双方で需要を伸ばしていくためには、アクセス利便性の向上と新たな需要を確保するための創意工夫に地元一丸となって取り組む必要があります。

幸い、関西圏では大阪湾ベイエリアにおける産業立地の活発化、地元自治体・経済界における

関西3空港問題への積極的取り組みの機運の盛り上がり等の明るい材料もあり、課題解決の絶好の時機であります。

国としても、当面の景気対策にとどまらず、我が国の国際競争力強化という施策の重要性を再認識し、これらの課題の解決に地元と協力して取り組んでいただきたいと思います。

当調査会では、関西プロジェクトにおける環境面や地域整備面での中立的な第三者機関としての社会的役割を引き続き果たしてまいりたいと決意を新たにしております。

具体的には、環境に配慮した海上空港という関西国際空港の原点を守る環境監視の実施機関としての役割を今後とも果たしてまいりますとともに、関西国際空港の発展と同空港を活用して関西が一層活性化していくため、関西国際空港を中心としたグローバルロジスティクス機能のあり方、関西国際空港を活用した付加価値の高いビジネスの可能性、関西3空港の地域からみた活用方策をはじめ、道路や鉄道等の空港アクセス利便性の向上策、関西国際空港の港湾機能の活用策などをテーマに研究会等の開催や提言などの情報発信に取り組んでまいります。

さらに、関係各位のご意見を踏まえて、これらの調査研究活動を新たな視点、新たなテーマで、より積極的に取り組んでまいります。

当調査会を取り巻く経営環境は厳しさを増すばかりですが、皆様の一層のご指導・ご支援をお願いいたします。